

20世紀型「効率的な生産システムの追求」は、終わった。
新しい生物圏の総合科学「フィールド科学」が
ここで始まっている。



左：本間航介講師
右：松崎健教授

環境教育の基地、文化人類学研究的基地…… ボーダレスな領域、渾然となったものが、環境科学



新潟大学農学部
フィールド科学教育研究センター
佐渡ステーション

1951（昭和26）年に農学部附属演習林として三川村に設置された。1955（昭和30）年に新潟県から現在の演習林（相川町）を無償譲渡。研究宿泊施設は、小学校の跡地。両津港からは車で約2時間のところ。



佐渡、相川町の小田に佐渡ステーションがあります。迎えてくださったのは、松崎 健教授と本間航介講師。演習林周辺のお話を伺いました。

尾根づたいに続く約500haの小ぶりだけれど魅力にあふれている森林だと、本間航介さんはおっしゃいます。その象徴は、スギの天然林群落。

「特殊な気候で、常に霧が発生しやすい地点にスギ林の群落があります。そういう場所を雲霧帯と呼んでいて、直径2m、600年の樹齢を持つスギが存在します。佐渡の人も知らない島全体で最も高い自然度を備えた森林なんです。」

さらなる研究体制を組んでいく必要があると、グローバルスタンダード化され始めている研究体制LTER(Long-Term Ecological Research) に着手しているとのこと。

この場が許さない。
文系の人こそ、足を運んでみよう。

教育利用のお話をお聞きすると、森林に関する基本的なことを体で覚えるのだそうです。『森林環境科学実習』『演習林実習』……とその名前だけでは予想もつきませんが、鉦を研ぐことからはじめ、森との関わり方を学ぶ実学。環境に対するイメージが変わり、今では参加学生の男女の比率は半々とのことでした。

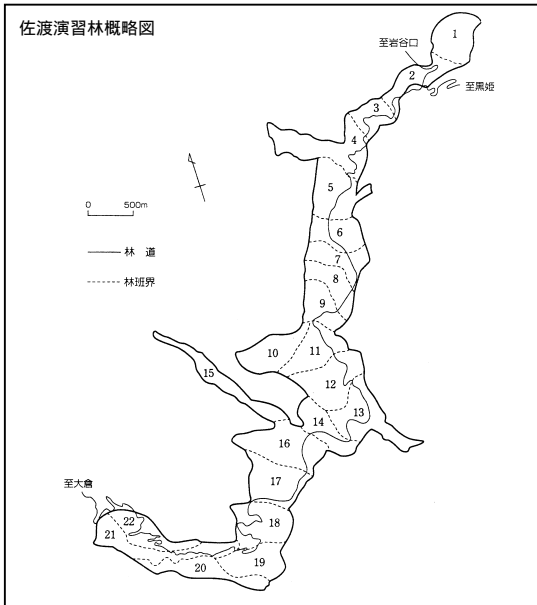
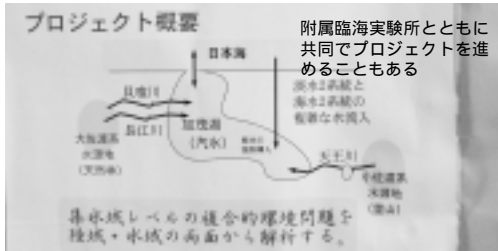
「そして、地元の環境問題を研究する受け皿にもなってきました。トキを野性に戻すことを検討するプロジェクトが動いていますが、そのコンサルティングも一部担っています。さらに、地元の方が土地を提供してくださり、里山を活かす方法を考えるプロジェクトも進んでいます。私も環境問題で一番に打つ手は、半自然の里山をどう活かすかだと思っていますから。また、環境NPOの実習受け入れも行っています。JUON

単なる森林学習の場以上のポテンシャルが 佐渡ステーションにはある。

NPOからの寄稿

ステーションと
NPOの関係

フィールド科学教育研究センター 佐渡ステーション



森と人の循環

開かれた大学施設
NPOの森林実習地として
評判で理想的な情報循環が
始まっている

所属するNPOの森林実習（佐渡：森林の楽校）も3回目を迎え、実習地：佐渡ステーションの評判はウナギ上りである。既にリビータも出来、参加者数は首都圏や先行地での実績を上回った。最近まで多くの島民が、その存在さえ知らなかった杉の原生林は、島の財産としても認知されつつある。

ステーション教官・職員が丸となった「市民・島民に開かれた大学施設」への情熱が、実習参加者の心を掴み、それがネットや口コミで着実に広がるという理想的な情報循環が始まっている。これは『市民が集う大学 - 大学がサポートする地域社会』の先取りの動きとしてマスコミも注目している。最近、新聞やテレビ・ミニコミ誌などで、度々佐渡ステーションが紹介されるのもそのためであろう。

この流れをこれからも大切に
して行きたい。

JUON NETWORK会員
光井 高明（佐渡在住）

NETWORK、樹木・環境ネットワークなどが利用してくれています。住民、NPOとのつながりが増えてきました。」

「学生にも変化が見られます。『私、環境教育の業務に関わりたい。だから、ここで基本を学ぶ。』という学生もいるんです。ここはとってポテンシャルが高いフィールドですから、興味のある方はどんどん来て欲しいですね。文系の人たちにも来て欲しい。特に教育人間科学部の人、教授陣にも来て欲しい。経済系、人類学系、佐渡は研究フィールドとして魅力があるんですから。学際を超えて、渾然としたものが環境科学だと思えます。」

「そのためにも、大学の重点施設として育てていきたいですね。問題は、キャパシティなんです。学びの受け入れを行う教官のキャパシティ。山の管理を行う技官のキャパシティ。そして空間・スペースを確保する施設のキャパシティ。これからも続く問題です。」

（編集部）

フィールド科学教育研究センター
佐渡ステーション（元佐渡演習林）
研究以外に何もすることのできない
この環境こそが、たまらない魅力

農学部 生産環境科学科 4年
金子 洋平

自然に囲まれ、四季ではなく日々の変化にふれ、研究以外に何もすることのできないこの環境は、ほとんどの学生には敬遠されがちなのが現状である。しかし、物好きには喜び以外の何物でもなく、魅力的なのだ。また、演習林の本当の魅力とは地域の人々との交流であり、他大学の広範囲にわたる専門家の人達との出会いにこそ痛感され、何事にも代えることのできない体験なのではないだろうか。



特定非営利活動法人

JUON NETWORK

<http://www.univcoop.or.jp/juon/>
都市と農村村をネットワークで結び、環境・地方文化・過疎過密の問題解決にのぞむ。事務局は、東京都杉並区。新潟大学、生田孝至教授が理事として参加。大学生協の支援を受け、1998年4月に誕生、1999年11月、NPO法人認証。

森林の楽校（もりのがっこう）

JUON NETWORKが主催する森づくり体験プログラム。今年は、新潟県他に、埼玉県、徳島県、兵庫県、群馬県、富山県で開催された。